

白内障の創口は3ミリ ー治療のタイミングは？ー

眼科の診察で、「白内障がありますね」といわれることがあると思います。頭髪の白髪が加齢によって出てくるのと同じで、白内障も誰にでも少しずつ出てくるものです。しかし白内障イコールすぐに手術ではありません。

人間の眼球はカメラと同じ仕組みでものを見えています。つまりレンズ(水晶体)で光を集めて、フィルム(網膜)に像を映します。それを脳へ情報として送ります。白内障とは、水晶体が加齢によって濁ってきて、視力が低下した状態のことを言います。

有効な治療は手術です。実際の手術は、水晶体(直径約 10 ミリ)を取り出して、代わりに人工のレンズをはめ込むという二つの手順からなります。図 1 のように黒目(角膜)のふちに 3 ミリの切開をして、水晶体を吸い出す器械を差し込みます。この先端から超音波を出して水晶体を細かく砕き、眼外に吸い出します。超音波乳化吸引術といいます。

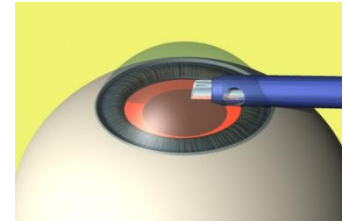


図 1

人工のレンズは図 2 のような形をしています。レンズ本体は直径 6 ミリで、2 か所についている腕のような部分は、眼内に固定するための「支持部」です。このレンズは折りたたむことができ、3 ミリの創口を広げることなく眼内に移植することができます。



図 2

では、手術治療はいつ受けるのがよいでしょう？それは「見えづらくて不便と感じたとき」です。たとえば、自動車の普通免許の合格基準は矯正視力(一番見やすいメガネをかけた視力)で 0.7 です。したがって免許の更新を続けたい人は、これを割り込んだ時が手術のタイミングです。逆に 0.7 より悪い視力であっても、日常生活(テレビを見る、買い物をするなど。)に不自由がないのであれば、手術は必要ないこともあります。手術の必要性は、担当の先生とよく相談して決定することが大切です。

白内障の進行はゆっくりで、視力が悪くなっても自分では気づかないことがあります。そのため運転免許の講習で視力低下を指摘され、「本試験までに治してほしい」とあわてて来院する患者さんがいらっしゃいます。

しかしながら、手術をして最高の視力が出るまでに時間が必要(おおむね 2~3 か月。そのあとメガネの作成が必要)です。また、実際の手術までの順番待ちは数カ月あるので、視力回復までには十分な期間が必要です。

白内障の治療をスムーズに進めるためには、1年に1回は地域の眼科医院を受診し、視力検査などの総合的な検査を受けておくと安心です。



【眼科診療部長 丸山 泰弘】

